

2021年6月17日

新潟県産天然ガス対応 家庭用燃料電池

「エネファーム」販売開始から 10周年

～累計稼働台数 2,600 台突破 CO₂削減効果 3,865 t/年～

北陸ガス株式会社（本社：新潟県新潟市／代表取締役社長：敦井一友）は、2011年6月17日に新潟県産天然ガス対応の家庭用燃料電池「エネファーム^{※1}」の販売^{※2}を開始し、本日10周年を迎えます。

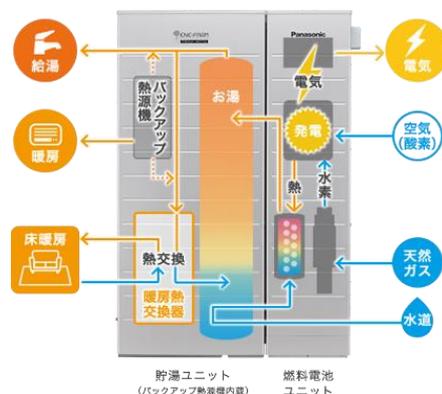
エネファームは、2009年5月に世界初の家庭用燃料電池として国内で発売^{※3}されましたが、当社が供給する新潟県産天然ガスに含まれる成分の影響により、エネファームの運転に支障があったことから、当社ではすぐに販売できない状況でした。そこで当社は県産天然ガス対応の試作機製作等の協力をメーカーに要請し、幾度の実証実験を経て、2011年に販売を開始することができました。

販売開始以来、2021年5月までの累計稼働台数は2,679台となり、エネファーム稼働によるCO₂削減効果は、年間約3,865t（約28万本の杉の木が1年間に吸収するCO₂に相当^{※4}）となりました^{※5}。

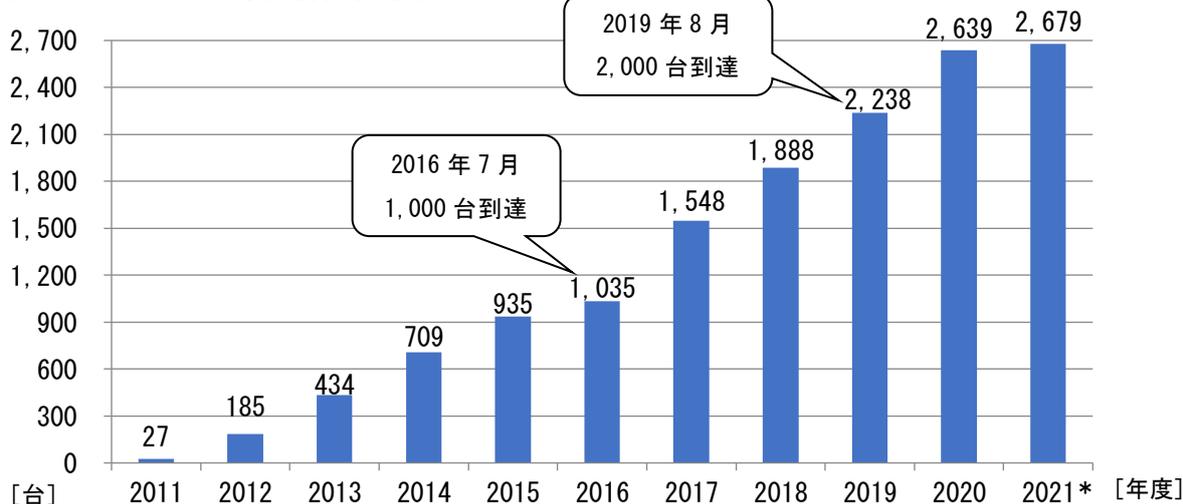
当社は、今後も更なる「エネファーム」の普及促進に取り組むとともに、お客さまの快適な暮らしの実現と環境負荷の低減、エネルギーセキュリティの向上などに貢献してまいります。

【エネファームの特徴】

エネファームは、都市ガスから取り出した水素を空気中の酸素と化学反応させて発電し、発電した電気は家庭内で利用し、その際に出る熱も給湯に利用できる環境に優しいエネルギーシステムです。また自然災害が増加している近年は、停電時でも電気とお湯が使える^{※6}、断水時には生活用水の確保ができる^{※7} エネファームの災害時に備えた機能にも関心が高まっています。



【エネファームの稼働台数推移】



* 2021年5月時点の累計稼働台数

【エネファームの主な変遷】

2011年6月	新潟県内で初のエネファーム（東芝燃料電池システム製）販売開始
2011年9月	新潟県のお客さま先（三条市）で初めて運転開始
2012年8月	停電時発電機能付の新製品を発売
2017年6月	パナソニック製エネファームを発売 停電時発電継続機能が標準装備され、断水時に雑用水の取り出しができるなど非常時に役立つ機能を搭載
2021年5月	非常時に役立つ機能が強化された新型エネファーム ^{※8} を発売 停電リスクを予測し停電に備える機能が追加され、さらにガスの停止時には電気ヒーターでお湯をつくる機能を搭載

【歴代エネファーム（一例）】



2011年6月
販売開始



2017年6月
販売開始



2021年5月
販売開始

※1：エネファームは、東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社、ENEOS株式会社の登録商標です。

※2：当社エリア内の一部の地域におきましては、エネファームを取り扱っておりません。

※3：東京ガス株式会社が発売開始。

※4：杉の木のCO₂吸収量原単位＝13.9kg-CO₂/年・本（林業白書平成9年より50年杉 直径26cm 樹高22m）

※5：CO₂削減効果は、潜熱回収型ガス給湯暖房熱源機＋火力発電による電気を使用した場合との比較。

※6：停電時にエネファームを発電させるには都市ガスと水道が供給状態であることが必要です。

※7：水洗トイレ用水等、飲料目的以外の水としてご利用いただけます。

※8：詳細は、2021年3月15日リリース

「新型エネファーム5月1日発売開始！～レジリエンス機能を強化～」をご参照ください。



北陸ガス株式会社は、SDGsの達成に向けて積極的に取り組んでおり、SDGsの達成に関連するプレスリリースには、「SDGsの目標アイコン」を明示しております。

<お問い合わせ先>

北陸ガス株式会社 企画グループ 担当 本間

TEL：025-245-2214